

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 10 月 20 日現在

機関番号：28002

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2015

課題番号：26861991

研究課題名(和文)小離島の男性高齢者の性差を活かした生きがい就労による介護予防活動

研究課題名(英文) Care prevention activities for elderly men through gender-based, motivation-boosting work on a small remote island

研究代表者

山口 初代 (Yamaguchi, Hatsuyo)

沖縄県立看護大学・看護学部・助教

研究者番号：70647007

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：沖縄県小離島A島では、性差を活かしたNPO法人による新たな事業が進められ、それは生きがい就労にも繋がっていた。今回は、A島の高齢者の地域包括ケアシステムの方向性を見いだすために、NPO法人による新たな事業を含む地域活動15項目への参加と相互扶助との関係を検討した。

地域活動には内部一貫性が認められ、活動内容ではなく、参加活動数に依拠することが示された。地域活動への参加尺度と相互扶助は、有意な関連や相関関係もみられ、相互扶助における支援者になる類型ほど多様な地域活動への参加者が多かった。

そのため、A島の地域包括ケアシステムの方向性として、多様な地域活動参加への支援が有効であろうと示唆された。

研究成果の概要(英文)：A novel gender-based project for elderly men is being conducted by an NPO on Island A, a small remote island in Okinawa Prefecture. This comprehensive community care system engages the elderly in work activities that give a sense of life's worth. This study aimed to indicate future directions for this system by examining the relationships of participation status in 15 community activities, including a new project by the NPO, with mutual aid among elderly persons. Internal consistency was confirmed in each activity. This depended on the number of participants, not the contents of the activities. The scale of participation in community activities was significantly associated with mutual aid, and those playing a supportive role in activities were more likely to participate in various community activities. This suggests that a future direction for the comprehensive community care system on Island A is to encourage individuals to participate in various types of community activities.

研究分野：医歯薬学

キーワード：介護予防 生きがい就労 小離島 高齢者 地域活動

1. 研究開始当初の背景

超高齢化と要介護認定者の増大を背景に、介護予防が重視され、その活動は地域の実情に応じ柔軟に実施することが求められている。しかし、ほとんどは、専門職主導による画一的なサービスの提供にとどまり、その参加状況は目標値を大きく下回っている。参加者のほとんどは女性高齢者で、男性高齢者の参加は介護予防事業全体の2割未満であることが報告されている。

介護予防事業における先行研究を概観すると、参加要因について事業者側と高齢者側から捉えたもの、参加につなげる取り組みの実際がみられる。事業者側の要因として、男性高齢者は女性高齢者に比べて明確な目的のある事業を好み、茶話・ふれあいサロン事業では有意に男性の参加割合が低いことが報告されている。高齢者側の要因として、介護予防は現実の暮らしの中から導き出され、個人から地域までという連続性をもつものであることが求められ、介護予防と日常生活は独立するものではなく、介護予防を日常生活の中に取り込んでいくことが重要である。そして、参加につなげる取り組みとして、性差に配慮したプログラム開発、介護予防を広い概念として捉え、就労にも着目されつつあり、シルバー人材センターでの収入のある仕事が、介護予防として効果があることが報告されている。

これまでの我が国の介護予防は、当事者ではなく保健医療福祉介護職により企画・実施されてきた。そのため、介護予防活動は就労と切り離され、活動日、場所、内容を設定し画一的に実施され、結果として男性高齢者の利用ニーズにつながらなかったといえる。

ところで、人口は減少の一途を辿り、高齢化率 45.9%で限界集落となりつつある沖縄県 A 小離島において、高齢者が修学旅行生を自宅で預かり宿泊させる「民泊事業」に着目し、「当事者の語りによる高齢者の“生きがい就

労”の実態とニーズ」を把握した。その結果、男女ともに、过らの生きがい就労のコンセプトである【働きたいときに無理なく楽しく働ける】【現役時代に培ってきた能力・経験が活かせる】【高齢者の就労が地域の課題解決の貢献につながる】を包含していた。そして、女性高齢者は生きがい就労(民泊事業)を、日常生活での楽しみに発展させていたのに対し、男性高齢者はニーズとして、社会システムの中でのしくみづくりを求めており、A 島の生きがい就労における性差の特徴が把握された。

2. 研究の目的

人口は減少の一途を辿り、高齢化率 45.9%で限界集落となりつつある沖縄県小離島の A 島では、NPO 法人による新たな事業が進められている。それは、性差や島の特徴が活かされ、生きがい就労にも繋がっていた。

今回は、A 島の高齢者の地域包括ケアシステムの方向性を見いだすために、地域活動(伝統行事、地域行事、NPO 法人が関与している地域行事)への参加と相互扶助との関係を検討する。

3. 研究の方法

A 島在住の全高齢者 320 人を対象に、質問紙による個別面接調査を実施した。有効回答は 235 票(73.4%)である。地域活動 15 項目(伝統行事 3 項目、地域行事 6 項目、NPO 法人が関与している地域行事 6 項目)への参加の有無を問う項目は、尺度としての信頼性が高く(クロンバックの $\alpha = .85$)、尺度化を行った。地域活動への参加尺度得点は、参加活動数により「低得点(0~3)」、「中得点(4~6)」、「高得点(7~15)」の3段階とした。相互扶助は、「家族以外の方から買い物や用事を頼まれたら行くか」の有無と、「家族以外の方に買い物や用事を頼めるか」の有無の組合せから、「非支援・非依存」、「非支援・依

存」、「支援・非依存」、「支援・依存」の4類型を抽出した。上記の地域活動への参加尺度と相互扶助との関係についての研究仮説を二変数関連分析、二変数相関分析、および分散分析により検討した。倫理的配慮として、沖縄県立看護大学の倫理審査を受け、趣旨、プライバシーの保持等、同意を得て実施した。

4. 研究成果

地域活動への参加尺度と相互扶助は、有意な関連や相関関係もみられた(クラマーの $V = .358$, スピアマンの $r = .345$, いずれも $p < .001$)(図 1、表 1)。相互扶助の類型により地域活動への参加尺度得点の平均点に有意差があり、「支援・非依存」・「支援・依存」の類型は「非支援・依存」・「非支援・非依存」の類型より地域活動の参加数が多かった ($F(3,229) = 21.732, p < .001$)(表 2)。

A 島の高齢者の地域活動の様態は、15 項目の内部一貫性が認められ、活動内容ではなく、参加活動数に依拠することが示唆された。Covey(1996)は、人間の発達を依存から自立、自立から相互依存(Win-Win)への成長過程と捉えている。本調査では相互扶助における支援者になる類型ほど多様な地域活動への参加者が多かった。そのため、相互依存を展

望し得る A 島の地域包括ケアシステムの方向性として、多様な地域活動参加への支援が有効であろうと示唆された。

5. 主な発表論文等

[学会発表](計 2 件)

山口初代、大湾明美、佐久川政吉、田場由紀、伊牟田ゆかり、坂東瑠美：沖縄県小離島 A 島における高齢者の地域活動への参加と相互扶助, 日本老年看護学会第 21 回学術集会, 2016 年 7 月(埼玉)。

山口初代、大湾明美、佐久川政吉、田場由紀、伊牟田ゆかり、呉地祥友里、大川嶺子、糸数仁美、坂東瑠美：沖縄県小離島 A 島における高齢者の地域活動への参加と生活満足感・幸福感, 日本ルーラルナース学会第 10 回学術集会, 2015 年 8 月(栃木)。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山口初代 (Yamaguchi Hatsuyo)

沖縄県立看護大学・看護学部・助教

研究者番号：70647007

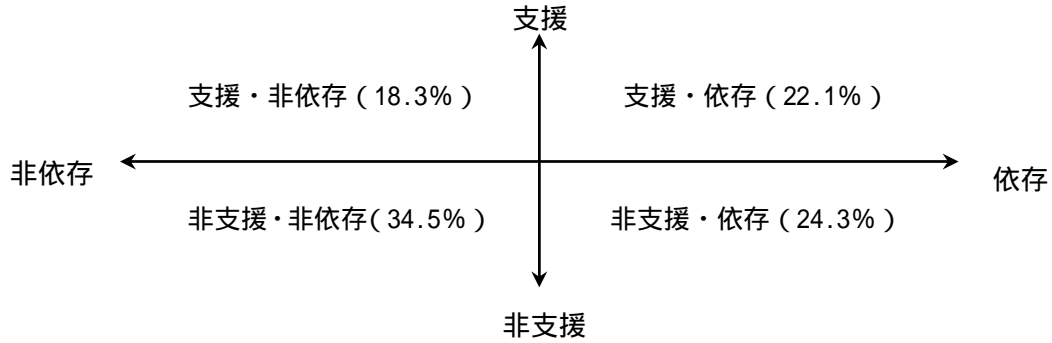


図1 類型別にみた「相互扶助」

表1 「相互扶助」と「地域活動への参加尺度得点」の二変量関連分析結果

相互扶助	地域活動への参加尺度得点3段階			合計
	低得点	中得点	高得点	
非支援・非依存	40.7%	38.3%	21.0%	100.0%(81)
非支援・依存	59.6%	22.8%	17.5%	100.0%(57)
支援・非依存	11.6%	23.3%	65.1%	100.0%(43)
支援・依存	7.7%	42.3%	50.0%	100.0%(52)
合計	32.6%(76)	32.6%(76)	34.8%(81)	100.0%(233)

$\chi^2=59.400$ $df=6$ $p<.001$, クラマーの $V=.357$ $p<.001$, スピアマンの $r=.353$ $p<.001$

表2 「相互扶助」の類型別にみた「地域活動への参加尺度得点」の平均得点と有意差

地域活動への 参加尺度得点	非支援 非依存 N=81	非支援 依存 N=57	支援 非依存 N=43	支援 依存 N=52	平均 N=233	有意差 事後検定結果 Scheffe, Tukey, LSD 類型番号表示	分散分析記述統計量		
							MS 効果	MS 誤差	F-値 (df=3,229)
平均点	1.80	1.58	2.53	2.42	2.02	> ***	11.58 9	.533	21.732***

注：網がけ表示は、地域活動への参加尺度得点の平均が有意に高い類型。*** : $p<.001$